

# 湘南藤沢学会「研究助成金 2018」研究成果発表(学会発表)

慶應義塾大学 環境情報学部 3年 川邊悠紀

## 1. 活動の名称

EuroPLoP2018での論文発表「Pattern Experience Chart Generator function on a pattern language platform Patterns We Live By」およびケルン大学へのラボ見学、SCEでのワークショップ主催

## 2. 活動日程

日時: 2018年7月1日 ~ 2018年7月10日

場所: ドイツ、カウフボイレン、イルゼー

ドイツ、ミュンヘン、SCE

ドイツ、ケルン、ケルン大学

## 3. 活動の目的

本活動の目的は、ドイツで開催されるEuro PLoPにて学会発表、ワークショップ開催、SCEでのワークショップを行うことである。発表論文は、「Pattern Experience Chart Generator function on a pattern language platform Patterns We Live By」である。本発表は、ライターズワークショップという方法を使った論文の質向上と、パターン・ランゲージを推進する学会に参加する研究者、実践者らからパターン・ランゲージの社会実装についての議論を目的としている。また、様々な場所でワークショップを行うことで研究成果を日本のみならず世界に発信できることは今後の研究活動において非常に有効であると考えます。

## 4. 活動の成果

本学会の参加者は約50名でドイツ、オーストリア、イギリス、アメリカ、中国のなどからのパターン・ランゲージに関する研究を行っている、大学教授、准教授、博士課程院生、企業の研究開発員であった。参加者らは6~8人程度のグループに分けられ、グループでは持ち寄った論文について1時間ずつ議論を行った。私の参加したグループでは主に教育分野のパターン・ランゲージの論文について議論が行われた。私の論文はパターン・ランゲージを日々の生活で実践する支援に関する研究で教育という文脈も含まれているので非常によい議論ができ、論文へのコメントも多くもらった。



今回の活動中4回ワークショップを開き、内一つではパターン・ランゲージに精通しない人も含んでのワークショップであった。それぞれのワークショップでのテーマは多岐にわたった。パターン・ランゲージの作成プロセスを一通り経験するもの、パターン・ランゲージをより社会実装していくためのア

アイデアソン、パターン・ランゲージの提案者であるクリストファーアレグザンダーの考えをもとにしたデザイン手法を体験するもの、ホリスティックマイニングと呼ばれる本研究会独自のパターン・ランゲージ作成プロセスにおけるパターンになる要素を見つけ出す方法を体験するものがあった。いずれのワークショップも盛り上がり、非常に有意義なものであった。これらのワークショップで得られたアイデアやフィードバックは今後の研究の役にたち、パターン・ランゲージの国際コミュニティー発展にも寄与すると考えられる。

## 5. 今後の展望

本学会で得られた論文へのフィードバックを基に論文をリバイズし、最終提出する。その後、ACMへの登録可否の発表がされる。論文、ワークショップで得られた意見を基に本研究をさらに発展させていきたい。

## 6. 謝辞

慶應義塾大学湘南藤沢学会の研究助成に対して感謝申し上げます。

以上